

視点「地域生活」

3 1 活動名「要求場面における他者との適切な距離の学習」

生徒の困難や課題

急に顔を近づけてきたり、いきなり人の腕をつかんだりして要求する、また相手が聞いているかは関係なく遠くから要求する、要求があるのに自分から近づけない、など一人一人異なる困難をもつ。

障害特性から推測される理由

社会的状況の理解の困難さ
他者の気持ち等を理解する困難さ
曖昧な判断の理解をすることの困難さ

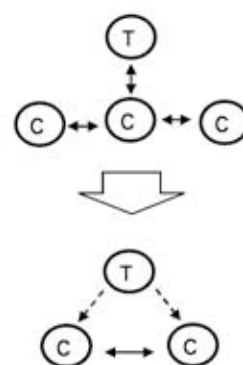
授業の目標

- ・要求場面において、他者と適切な距離をとることができる。
- ・他者と適切な距離をとるために必要なスキルを学習する。

<主な活動>

生徒の学習	支援
①全体のテーマに沿って、個別の課題（個々に得意な作業等）に取り組む。	・自然な学習の流れの中で、要求する必然性のある場面を設定する。
②個別の課題に取り組む中で、一つの作業が終わるごとに（材料がなくなるごとに）個々の実態に応じた方法で新しい材料をもらいに行く。 ・決められたラインまで行ったら、教員に呼び掛ける。 ・カードを教員に持っていく。 ・呼び掛けることで相手に近づきすぎないで要求する。 など	・生徒一人一人の困難の背景に応じた要求の方法（適切な距離がとれない困難を回避するスキル）を指導する。 ・経験回数を保障する。 適切な距離を理解するための支援の段階 ○机を挟んでの対面 ○自分の腕の長さ ○相手との間にラインを引いて、その位置で要求 ・即時評価することで身に付ける。
③適切な距離をとって要求できたかを教員と一緒に確認する。	

指導形態Ⅱ・Ⅲ



<授業の成果・期待される効果>

生徒一人一人の困難の原因を検証し、それに応じた方法で困難を回避できる方法を身に付けるようにした。例えば「先生」と呼びかけてから伝えることにより、急に近づきすぎたり触ったりせずに適切な距離をとることができた。今後、要求する相手や場面を変える段階を経ながら、般化につなげる。

「地域生活」

3 2 活動名「他者に対する身近なルールやマナーの学習（会話）」

生徒の困難や課題

先生や大人が話している間を通ってしまう。本人には悪気はないが、相手に不快な思いを与えてしまう。

障害特性から推測される理由

社会的状況の理解の困難さ
他者の気持ち等を理解する困難さ

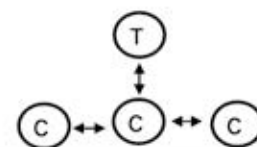
授業の目標

・話をしている状況に気付き、人の後ろを通るようになる。

<主な活動>

生徒の学習	支援
①状況のビデオを見る。	・自分たちで撮ったビデオを見る。ポイントで映像を止める。
②生徒に、このビデオの問題点を聞く。（話をしている先生たちの間を通ってしまう。）	・選択肢を提示する。
③問題点が見えてきたところで、どうしたらよいのかを考える。	・ビデオと同じ場面であることが分かるように場面設定をする。（学習内容とは違う課題を出し、その途中に話している場面があるように設定する。）
④同じ場面を作り、一人一人練習する。	
⑤生徒に評価をしてもらう。	
⑥上手にできた場面のビデオを見て、確認する。	

指導形態 II



<授業の成果・期待される効果>

日頃の行動を撮ったビデオ教材を使うことで、親近感が湧きよく集中している。登下校時の玄関のように混雑した場所でも、話している人の後ろを通るなど、行動が改善されてきている。

「地域生活」

3.3 活動名「待合室等でのマナーの学習（1）＜マイクッションの利用＞」

生徒の困難や課題

公共の場（スーパー、駅、公園、病院など）で、休憩時や待ち時間に、ベンチが空いていない時、立って待つことが困難で、不安定になったり、ベンチ利用者を叩いたりしてトラブルになってしまう。また、直接、床や地面に座ろうとしてしまう。

障害特性から推測される理由

社会的状況の理解の困難さ
他者の気持ち等を理解する困難さ

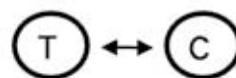
授業の目標

・校内での授業場面や外出時に、マイクッション（折りたたみ式簡易座布団）を自分の場所として活用することを通して、落ち着いて行動できるようにする。

＜主な活動＞

生徒の学習	支援
①校内での活動（体育等）、校外での活動時に「マイクッション」（折りたたみ式小型クッション）を持参する。	・常に本人の座る位置（居場所）としての「マイクッション」という理解を促す。
②待ち時間や休憩時に、床や地面に座る際、また、空いているベンチに座れる状況でも、「マイクッション」を敷いて座る。	

指導形態 I



＜授業の成果・期待される効果＞

校内での使用を積み重ねることで、「マイクッション」上が、自分の位置ということが定着すると、校外学習時や買い物学習時に、ベンチが空いていない時でも自分で敷いて座り、不安定にならずに活動ができた。

「地域生活」

3 4 活動名「待合室等でのマナーの学習（2）（呼び出し）」

生徒の困難や課題

病院などで、自分の順番が待てないときに、落ち着かなくなる。

障害特性からの理由の予想

活動の見通しをもつことの困難さ
社会的慣習の理解の困難さ
活動のルールを理解することの困難さ

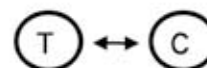
この授業で学習させたい目標

- ・呼出番号のルールを理解し、行動することができる。
- ・自分の番号が出るまで待つことができる。

<主な活動>

生徒の学習	支援
①本時の授業内容の説明を聞く。	・授業内容表で本時の授業内容を確認する。
②番号カードを受け取る。	・生徒の数字の理解に配慮して使用する数字カードを配布する。
③本を見る、TVモニターを見るなど静かにできる活動をする。	※生徒一人一人が、待つ間に一人で静かにできるレパトリーを増やすことが必要
④自分の番号が出たら、前に出てMTに数字カードを手渡す。	・前に出てカードを渡すことができたなら、賞賛し、スマイルマグネットを渡す。
⑤終わったら着席して待つ。	・着席するように促す。

指導形態 I



<授業の成果・期待される効果>

自分の持っている数字カードが表示されるまで待つことができるようになった。自分の数字が表示されたら、出て行き、カードを渡す活動を通して、呼出番号のルールの理解につながった。

「地域生活」

3 5 活動名「状況に合わせて気持ちを伝える学習」

生徒の困難や課題

課題や仕事をしているとき、自分一人ではできないような困った状況になっても周りに手助けを求めることができなくて、活動が止ってしまふ。

障害特性からの推測される理由

場に応じたコミュニケーションをすることの困難さ

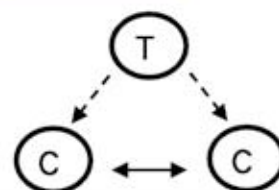
授業の目標

・困ったという状況を作り、「手伝ってください」という言葉で助けを求めること、その方法を知る。

<主な活動>

生徒の学習	支援
①紙芝居を見て、授業で取り組む内容を知る。	・重い荷物を運ぼうとしたけど重くて一人では運べないというときに「手伝ってください」と相手に伝えるというストーリーを簡潔に示す。
②順番表を見て、荷物を運び出す。	・「手伝ってください」の自発的な表出を促すために生徒の様子を見ながらカードや言葉などプロンプトを出す。
③荷物を片付けた広い教室で「だるまさんが転んだ」のゲームをする。	・生徒主体で進められるように教員の言葉掛けを減らす。
④後片付けをする。 廊下に出した荷物を教室の決まったところに戻す。	・「手伝ってください」の要求が出るように、見えるところにカードを掲示しておく。

指導形態Ⅲ



<授業の成果・期待される効果>

一人で運べるものと一人では運べないものを準備することで一人では持ち上げられないときに「手伝ってください」と言えるようになった。

授業の最後に物を片付ける場面を設けることにより、授業で取り組んだことをもう一度確認し、自然と「〇〇く～ん！」と友達を呼び、友達同士で一緒に物を運べるようになってきた。

教室以外のところでも困ったときに「手伝ってください」と伝えられることを期待している。

「地域生活」

3.6 活動名「順番やルールの変更を受け入れる学習」

生徒の困難や課題

友達が休んだり、その場になかったり、あらかじめ決められた順番通りにいかないときに不安になってしまったり、混乱してしまう。

障害特性から推測される理由

社会的状況の理解の困難さ
活動の見通しを持つことの困難さ
情動のコントロールすることの困難さ

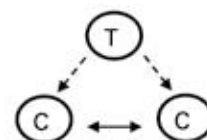
授業の目標

- ・欠席やいないという状況が分かる。
- ・順番通りにいかなかったときの対応について知る。

<主な活動>

生徒の学習	支援
①順番通りにいかなかった場合の対応を見聞きする。	・紙芝居を用いて順番通りにいかなかったときの対応を分かりやすくする。
②順番表に沿って活動をする。 ・順番表に「欠席者」がいた場合にどうする？	・生徒の行動が止まったときに「僕がやります」のカードを見せ、ヒントを出す。
③順番通りにいかなかった場合にどうするかを振り返りを行う。	・紙芝居で見せたカードを用いて振り返りを行う。

指導形態Ⅲ



<授業の成果・期待される効果>

回数を重ねるごとに順番表を見て、その生徒が「いない」ことに気付き、どうにかしなければという姿勢が見られるようになってきた。

「いないから僕がやる」と自分で気付き、代わりに取り組めるようになった。

授業以外の場面でも欠席の生徒や教員がいると「いない」から「僕頑張る」と意欲が見られるようになった。

「地域生活」

37 活動名「電車やバスの中でのマナー学習」

生徒の困難や課題

電車、バスなどに乗車し、座席に座れないと不安定になって座っている人をたたいたり、無理に座席に割り込んだりすることでトラブルになってしまう。

障害特性から推測する理由

社会的慣習の理解の困難さ
曖昧な判断の理解をすることの困難さ

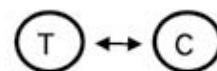
この授業の目標

・乗車駅（バス停）から下車駅（目的地駅・バス停）まで、座席に座らないで移動することを理解し、落ち着いて移動できるようにする。

<主な活動>

生徒の学習	支援
①学校から駅（バス停）に出発する前に、ルールカード（視覚的な教材）で確認する。 「○駅から△駅まで、立ちます。」等 時間10:00～10:30 絵「○駅」～つり革絵～「△駅」	・ミニホワイトボードなどを利用して、乗車駅から目的地駅まで「立つ」ことを事前に視覚的に提示し、理解を促す。
②駅に到着したら、乗車前に再度、ルールカードで確認し、乗車する。	・電車の中でのマナーを示したルールカードを用意する。
③目的地まで、ルールが守れたら、好きなシールをもらう等、個々に応じた賞賛をする。 ☆家庭（支援者）での外出時にも同じルールで取り組んでもらう。	・肯定的評価を即時にすることで、成功体験につなげる。

指導形態 I



<授業の成果・期待される成果>

電車・バスで座席が空いていなくても、目的地まで立って移動できるようになり、トラブルがなくなった。同じ支援方法を家庭でも取り入れることで、休日の保護者との外出が安定し、余暇の過ごし方が向上した。電車に乗る前に「○○駅まで、立つ」と自分で言うようになってきた。

「地域生活」

3 8 活動名「場面に合わせて声の大きさを調整する学習」

生徒の困難や課題

静かにしなければいけない場所（電車の中、映画館、レストラン 等）でも、大きな声を出してしまい周囲に迷惑をかけてしまう。

障害特性から推測される理由

社会的慣習の理解の困難さ

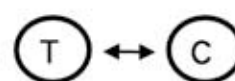
授業の目標（ねらい）

- ・声の5段階表を見て、場面に合わせた声の大きさを理解しコントロールすることができる。
- ・声の大きさの違いが分かる。

<主な活動>

生徒の学習	支援
①教師と一緒に声の5段階表を見て、声の大きさを確認する。	・実際に声の大きさを変えながら確認する。
②学校生活場面や日常生活場面の写真やイラストをどの声の大きさになるか分類する。	・“0の声”から順番に場面のイラストを教師が提示する。
③分類したイラストを自ら貼り付け、声の5段階表を作成する。	・自ら貼り付けて操作をすることで理解が深まるようにする。
④授業時間の声の大きさを確認して矢印をつける。	・イラスト部分を必要に応じて指さしする。
⑤声の大きさを守って活動する。	・授業時間内での声の大きさを約束し、守れている間は1分程度ごとに5段階表を示しながら言葉で評価する。 ・声の大きさが守れないときは、5段階表で適切な声の大きさを示し、守るように促す。

指導形態 I



<授業の成果・期待される効果>

学習場面で、適切な声の大きさを一緒に確認することで、静かにしようとする意識がみられるようになった。また、大きな声を出している時に5段階表を見せることで声を小さくすることができるようになってきた。他の学習場面や、校外に出る際にも5段階表で事前に声の大きさを確認することで、守れるようになってきている。

「職業生活」

3.9 活動名「指示書に従って行動する学習（色箱並べ）」

生徒の困難や課題

提示された指示書の見方が分からず、同じように作ることが難しい。指示書と同じに作る意味が分からないので、合っているかどうかのフィードバックができず、修正や訂正を受け入れることができないことがある。

障害特性から推測される理由

注目すべき刺激を適切に選ぶことの困難さ
活動のルールを理解することの困難さ

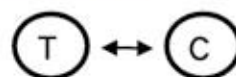
授業の目標（ねらい）

- ・指示書（見本）を手掛かりとして、同じ色と順番で構成する。
- ・指示書（見本）に合った色箱を絵カードで要求する。
- ・「違います」などの修正にも応じながら、課題を完成させる。

<主な活動>

生徒の学習	支援
①教員の示す順番表と一緒に確認する。 ※教員と交互に、見本を確認しながら課題を行っていく。	・順番カードを見て判断したり、人からの指示に応じたりする設定を行う。 ・生徒が意欲的に達成したい課題（教材）を用いることで、やり取りの幅を広げていく。
②示された順番（「先生の順番」「～くんの順番」「～さんの順番」など）を受けて、手を膝の上において待ったり、自分の順番で課題を行ったりする。	・「順番」提示を行う。 ・「順番」提示を受けた後の実際の行動を導く。
③見本に合った色の箱を絵カードで要求し、教員に伝える。 ※色箱は、教員が持っていて、要求することで受け取り、並べられるように設定する。	・視覚的に示された「順番」の修正や、「違います」などの修正を行い、それらに応じられるようにする。
④見本と違った場合は、教員に指示に応じて修正する。	・絵カードで確実に伝えられるように支援を行う。

指導形態 I



<授業の成果・期待される効果>

細かな指示書を見て、見本どおりに構成できるようになった。他の課題学習の際も、写真等の細かな指示書（見本）を見て、課題を完成できるようになっている。また、バリエーションとして、上から順番に行くなどの指示書の見方も分かるようになってきている。

「職業生活」

40 活動名「報酬について理解する学習」

生徒の困難や課題

報酬を励みに働くことが難しく、働く意味を感じることができない。

障害特性から推測される理由

活動の見通しをもつことの困難さ
想像することの困難さ
活動ややり取りの意味を理解することの困難さ

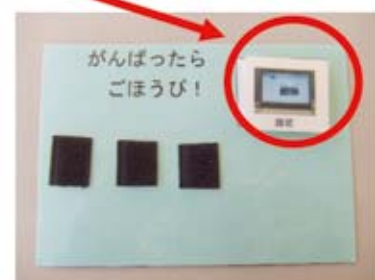
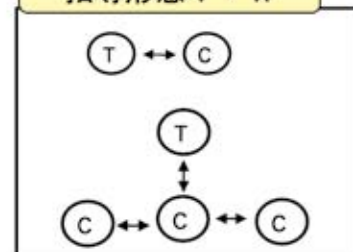
授業の目標（ねらい）

- ・活動をすると報酬がもらえることが分かる。
- ・好きなものを期待して活動に取り組む。

<主な活動>

生徒の学習	支援
①課題学習を行う前に、報酬（好きな物や活動）があることを確認する。	・御褒美（ここではパソコンでお気に入りの画像を見る）カードをトークンボードに貼る。 ・生徒に応じて、御褒美カードを複数の選択肢から選べるように提示する。
②スケジュール通りに学習を行い、一つの課題が終了ごとにトークンをもらう。	・学習内容をカードで提示する。順番に学習を行い、一つ終わるごとに教師が賞賛とともにトークンを渡す。
③もらったトークンを貼って貯める。	
④課題が終了し、トークンが貯まったら御褒美カードの内容で休憩できる。	・トークンボードに、トークンが全て貯まったら、教師がトークンをもらい、御褒美カードの内容（PC画像）で休憩するよう導く。

指導形態 I・II



<授業の成果・期待される効果>

トークンが貯まると良いことがある、ということを理解できるようになった。係活動や国語・数学等の時間でもトークンを活用することで、場面を限定することなく様々な場面でトークンをもらえることを期待して活動できるようになった。現在は、トークンをお金と交換し、貯まったお金で買物に行くという取組を行い、経済活動につなげている。

「職業生活」

4 1 活動名「活動の終わりを報告する学習」

生徒の困難や課題

活動が終わっても、何をしたらよいか分からず、止まっていたり、他の行動をしようとする。
報告をした後の作業の修正に応じることができずに、混乱してしまう。

障害特性から推測される理由

活動の見通しをもつことの困難さ
活動ややり取りの意味を理解することの困難さ

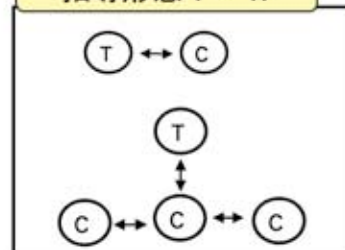
授業の目標（ねらい）

- ・活動が終わりに、“できました”カードを渡し、教師と一緒に確認して必要に応じて修正に応じる。
- ・ワークシステムを理解し、一人で課題を行う。

<主な活動>

生徒の学習	支援
①数字と色が対応した指示書で活動の流れを確認する。	・ワークシステムで、活動内容を上から順番にカードで提示する。報告が必要な箇所に“できました”カードを貼る。
②指示書のカードをはがして、同じ数字と色の課題を持ってくる。	
③持ってきた課題に取り組む。	・ここでは、一人でできる課題内容を用意し、支援なしで取り組めるようにする。
④“できました”カードを教師に渡す。	・課題が終了したら、指示書に貼ってある“できました”カードを取るように指差しや身体支援をする。 ・生徒の目の前でカードをすぐに受け取り言語で評価をする。徐々に教師の位置を離していく。
⑤教師と一緒に正しくできているか確認する。	・課題の完成を一緒に確認し、必要に応じて修正をする。

指導形態 I・II



<授業の成果・期待される効果>

課題学習の時間に“できました”カードが提示されているタイミングでカードを教師に渡すことが分かるようになった。その他の課題学習や、作業学習、係活動などの場面で、“できました”カードが提示されているタイミングで報告することができるようになった。また、カードを渡したら終わりではなく、必要に応じて修正をすることも理解できるようになっている。

「職業生活」

4.2 活動名「不足している物を他者に伝える学習（封入）」

生徒の困難や課題

コミュニケーションについて、必要な場面においても自分からの発信が少ない。
大人（教師）とのやり取りが多く、同年齢の生徒同士でのコミュニケーションが成立しづらい。

障害特性から推測される理由

場に応じたコミュニケーションをすることの困難さ

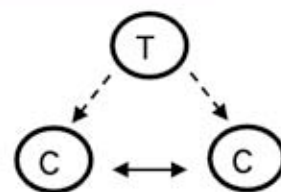
授業の目標（ねらい）

- ・教師や友人に声を掛けて、必要な材料をもらうことができる。また、応答することができる。
- ・小集団での活動に集中して取り組む。

<主な活動>

生徒の学習	支援
①本時の学習を説明する。	・生徒の仕事分担を文字と写真で表示する。 ・作業のポイント（スキル・態度・コミュニケーション）をモデルを示して説明する。
②生徒は仕事分担に応じて封入作業を始める。 （丁寧さ・集中力・ルール理解）	・ストップウォッチで時間を設定し、見通しをもてるようにする。
③必要な材料を、決められた人・場所から、適切な言葉を用いてもらってくる。 言われた生徒は手を止め、材料を渡す。 規定の時間まで作業を続ける。	・作業かごの底の写真と言葉を手掛かりにして、次の作業や言葉掛けを分かりやすくする。 ・やり取りの場面に注目し、必要に応じて言葉掛けなどの支援を行う。
④片付け・まとめ（仕事量の確認・学習の振り返り）	・言葉のやり取りについて振り返り定着を図る。 ・本日の学習の評価をし、作業量について大いにほめる。

指導形態Ⅲ



<授業の成果・期待される効果>

授業については支援ツールを活用し、スムーズに言葉のやり取りや物の受け渡しができるようになってきた。また別の場面においても、友人に物を渡す時に自然と「どうぞ」の言葉が出るようになった。

「職業生活」

4 3 活動名「援助を求める学習」

生徒の困難や課題

作業中に手元に材料がなくなってしまうときに伝えることができず、手が止まったり混乱してしまう。

障害特性から推測される理由

場に応じたコミュニケーションをすることの困難さ

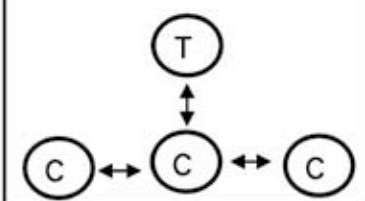
授業の目標（ねらい）

- ・材料がなくなった時に“ありません”カードを教師に渡す。
- ・役割分担表を見て、自分の役割を遂行する。
- ・共同のトークンシステムを理解する。

<主な活動>

生徒の学習	支援
①今日の作業内容の役割分担を確認する。	・数字と写真カードで役割分担表を提示する。
②決められた作業（しょうゆ入れやピッキングなど）を行う。	・役割分担表の上から順番に作業を行うようにする。必要に応じて指さしや身体支援を行う。
③作業の材料がなくなったら“ありません”カードを近くの教員に渡す。	・材料がなくなった状況で、すぐに机上有る“ありません”カードに手を伸ばせるように身体的ガイダンス（支援）等をする。
④足りない材料をもらう。	
⑤作業が終わったら“できました”カードを渡す。	・“できました”カードを教師に渡すように身体援助等をする。
⑥トークンを貯めて報酬をもらう。	・全員分のトークンをトークンボードに貼り付け、報酬と交換するようにする。

指導形態 II



<授業の成果・期待される効果>

材料がないという状況設定の中で、“ありません”カードの意味が分かってきた。自ら、“ありません”カードを教師に渡す生徒もでてきた。また、国語・数学、作業学習・職業・家庭の授業の中でも、何か足りない状況の中で、“ありません”カードを渡す行動も見られるようになった。

「職業生活」

4 4 活動名「作業の区切りに報告する学習」

生徒の困難や課題

作業や仕事で、区切りがついたとき、いつ、誰に、どのような方法で報告するか分からないで、活動が止まってしまう。

障害特性から推測される理由

場に応じたコミュニケーションをすることの困難さ

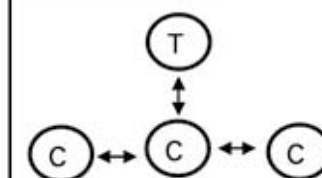
授業の目標

・現在取り組んでいる活動が終わった際に、「できました」と報告できる。

<主な活動>

生徒の学習	支援
<p>①生徒が習得済みであり、落ち着いて取り組める活動を準備する。 (生徒によっては選択する)</p> <ul style="list-style-type: none">・アイロンビーズ・刺しゅう・紙ちぎり 等	
<p>②決まった量が終わったときに「できました」と報告する。</p>	<ul style="list-style-type: none">・机上に支援カード（「活動予定、できました」）を提示する。・教員は初め近くにおいて、少しずつ離れていく。・「できました」が言える生徒については支援カードを外す。
<p>③タイムタイマーなどで活動時間を確認しながら、時間内で繰り返し行う。</p>	

指導形態 II



・生徒の言語能力に応じて、先生への呼び掛け、文での報告、単語での報告をねらう。



<授業の成果・期待される効果>

取り組んでいる活動が終わったときに、「できました」と報告できるようになった。
表現の少ない生徒が、カードや身振りを通して教員に伝えようとする態度が育ってきた。

これまで作成・配布した自閉症教育推進の関係資料

平成23年3月 東京都教育庁 指導部

	名 称・内 容	発 行	表 紙
1	<p>自閉症の児童・生徒のための教育課程の編成について 新たな指導の形態として「社会性の学習」の創設</p> <p>【内 容】 知的障害養護学校での自閉症の障害特性に配慮した教育課程に向けた新たな指導形態「社会性の学習」の創設について（2,000部。32ページ。A4判）</p>	平成18年3月	
2	<p>自閉症の障害特性に応じた指導の充実</p> <p>【内 容】 自閉症の障害特性や行動特徴、自閉症の児童・生徒の理解と基本的な対応方法等について。全都立特別支援学校向けの啓発資料（9,000部。4ページ。A4判）</p>	平成18年8月	
3	<p>自閉症の障害特性に応じた教育のガイドライン 自閉症の教育課程の編成と「社会性の学習」</p> <p>【内 容】 自閉症の障害特性に応じた教育の充実を図るための自閉症教育のガイドラインと平成18年度から新たな指導の形態として試行的に行っている「社会性の学習」の実践事例について（2,000部。72ページ。A4判。カラー印刷）</p>	平成19年3月	
4	<p>自閉症の教育課程の充実</p> <p>【内 容】 自閉症の教育課程の充実を図るための「社会性の学習」、「認知の学習」、「般化の学習」の指導内容や方法についての理論と指導事例等について。自閉症の児童・生徒で編成した学級における学級経営の基本的事項について（2,000部。52ページ。A4判）</p>	平成20年3月	
5	<p>自閉症の児童・生徒で編成した学級における指導の充実</p> <p>【内 容】 自閉症の児童・生徒で編成した学級における児童・生徒に分かりやすい学習環境について。「構造化」の実践例や、校内表示や教室表示等の絵カード図案集を含む（2,000部。32ページ。A4判）</p>	平成21年3月	
6	<p>東京都立特別支援学校の自閉症学級のための学習環境の構造化について</p> <p>【内 容】 小学部及び中学部第1学年の自閉症の児童・生徒が新たな環境の中で学習を始めるにあたり、教室環境を整備するために必要な施設・設備について（2,000部。8ページ。A4判）</p>	平成22年2月	

<p>小学校特別支援学級における自閉症の児童の指導の工夫</p>		
<p>【内 容】 小学校の特別支援学級において、自閉症の児童に配慮した指導計画の作成するために、自閉症の児童の障害特性の理解に関する理論編と実践編について（2,600部。52ページ。A4判）</p>	<p>平成23年3月</p>	
<p>東京都立知的障害特別支援学校小学部自閉症学級指導書 社会性の学習</p>		
<p>【内 容】 自閉症の教育課程の充実を図るため、「社会性の学習」目標や内容等の理論編と小学部の指導内容や方法についての実践編について（2,000部。94ページ。A4判）</p>	<p>平成23年3月</p>	

○ 平成23年度自閉症教育充実事業

1 都立特別支援学校自閉症教育充実事業研究指定校等

研究指定校	
東京都立高島特別支援学校	東京都立矢口特別支援学校
東京都立羽村特別支援学校	東京都立小金井特別支援学校
東京都立白鷺特別支援学校	

2 都立特別支援学校自閉症教育推進委員会

所属	職名	氏名	備考
横浜国立大学	教授	渡部 匡隆	専門委員
東京学芸大学	准教授	小笠原 恵	専門委員
都立小児総合医療センター	顧問	市川 宏伸	専門委員

東京都立羽村特別支援学校	校長	山口 真佐子	委員長
東京都立高島特別支援学校	校長	安武 ひろみ	副委員長
東京都立矢口特別支援学校	校長	中村 浩司	副委員長
東京都立小金井特別支援学校	校長	坂口 昇平	副委員長
東京都立白鷺特別支援学校	校長	山口 学人	副委員長
東京都立矢口特別支援学校	主幹教諭	赤荻 浩之	委員
東京都立小金井特別支援学校	主幹教諭	眞保謙一郎	委員
東京都立羽村特別支援学校	主任教諭	木村 栄子	委員
東京都立高島特別支援学校	教諭	加藤 智子	委員
東京都立白鷺特別支援学校	教諭	八嶋 直子	委員

3 指導書作成部会

所属	職名	氏名	職名	氏名
東京都立矢口特別支援学校	主幹教諭	赤荻 浩之	主任教諭	野澤 良介
東京都立小金井特別支援学校	主幹教諭	◎ 眞保謙一郎	教 諭	柴田 いつか
東京都立羽村特別支援学校	主任教諭	木村 栄子	教 諭	鈴木 かおり
東京都立高島特別支援学校	教 諭	加藤 智子	教 諭	西田 恵理子
東京都立白鷺特別支援学校	教 諭	八嶋 直子	教 諭	平原 和生

◎：世話人

※東京都教育委員会では次の者が担当した。

指導部義務教育特別支援教育指導課長	伊東 哲
指導部特別支援学校教育担当課長	朝日 滋也
指導部主任指導主事（特別支援教育担当）	伏見 明
指導部義務教育特別支援教育指導課統括指導主事	諏訪 肇
指導部義務教育特別支援教育指導課統括指導主事	市川 裕二
指導部義務教育特別支援教育指導課指導主事	原島 広樹

東京都立知的障害特別支援学校 中学部自閉症学級指導書
「社会性の学習」

東京都教育委員会印刷物登録 平成23年 第204号
 発行日 平成24年3月
 編集・発行 東京都教育庁指導部義務教育特別支援教育指導課
 所在地 東京都新宿区西新宿二丁目8番1号
 電 話 03-5320-6847

